

2026 年 10 月 23 日

報道関係各位

三菱地所株式会社

**千歳市と三菱地所、先端半導体 R&D 拠点形成を起点とする
地域産業の躍進に向けたまちづくりに関する包括連携協定を締結**
北海道からつながる広域連携による産業エコシステム 新産業領域への取り組み加速

三菱地所株式会社は、先端半導体 R&D 拠点形成を含む新千歳空港周辺地域他のまちづくりを推進し、次世代半導体等の地域産業の躍進に寄与することを目的として、2026 年 10 月 23 日に北海道千歳市と包括連携協定（以下「本協定」）を締結しました。

本協定は三菱地所にとって、北海道をはじめ全国で推進する先端産業を起点としたまちづくりの一環であり、企業・研究機関・行政などをつなぎ、技術・人材・資本が循環することで、新たな付加価値を継続的に生み出す「産業エコシステム」の形成に注力しています。北海道では新千歳空港等の運営や北海道バレービジョン協議会（HVVA）への参画をはじめ、首都圏では量子技術の社会実装に向けた共創拠点「[Tokyo Quantum Gateway（仮称）](#)」開設や、「新川崎・創造のもりイノベーション拠点整備事業」における量子・AI・半導体等の関連分野の研究開発拠点の整備・運営への参画、さらに[東北大学と量子・半導体・フィジカル AI に関する包括連携協定の締結](#)など、新産業領域への取り組みを加速させています。

また、千歳市では、2023 年に Rapidus 株式会社が進出を決定して以降、半導体関連企業や研究機関など、半導体産業の集積が進んでいます。2025 年 2 月に策定された「千歳市将来ビジョン」では、Rapidus 進出を契機とした半導体産業の拠点化など、将来目指すべきまちのコンセプトが掲げられ、その具体化に向けた取り組みが進められています。

三菱地所と千歳市は本協定を通じ、先端半導体 R&D 拠点の形成を起点に、半導体の技術革新から実用化・社会実装までの高速化を目指します。また、千歳らしさを活かした魅力的な生活環境の充実化にも取り組み、更なる企業・人材の誘致・定着による地域産業の持続的躍進、千歳全体での成長に向けて連携します。



三菱地所は本協定の締結とあわせ、千歳市他と「千歳美々ワールドにおける先端半導体研究開発・イノベーション推進拠点の形成に関する連携協定」を締結しております（[参考リリース](#)）。千歳市において次世代半導体産業の更なる集積・拠点化に取り組むことで、地域の成長に貢献するとともに、まちづくりを通じた国内外につながる産業エコシステムの形成を目指してまいります。

■先端半導体 R&D 拠点形成を起点とする地域産業の躍進に向けたまちづくりに関する包括連携協定の概要

締結日：2026 年 10 月 23 日

内 容：(1) 先端半導体 R&D 拠点形成及び産業エコシステム形成に関する事項

(2) 先端半導体 R&D 拠点形成と連動した空港周辺地域ほかにおける産業まちづくりに関する事項

(3) 地域産業の躍進に必要な都市機能・都市基盤整備に関する事項

(4) 三菱地所が有するまちづくりの知見を活かしたエリアマネジメント、地域産業・人材支援、地域と都市の関係人口・交流人口創出に関する事項

■三菱地所グループの北海道における取り組み

三菱地所グループは、1947 年に札幌出張所を開設して本格的に北海道内で事業を開始して以降、オフィス、住宅、商業施設、ホテルなど、約 80 年にわたって地域とともに歩み、北海道の発展に携わってきました。また、2020 年からは北海道エアポート株式会社への出資・事業参画を通じて、新千歳空港をはじめとする道内 7 空港の一体運営に携わっています。空港は単なる交通インフラではなく、人材・企業・研究機関・投資・観光を結ぶゲートウェイであり、当社は空港運営を通じて、北海道各地と国内外を結ぶ広域的な視点とネットワークを培ってきました。

さらに、北海道バレービジョン協議会（HVVA）に設立当初から加盟し、北海道全体の産業競争力の向上や先端産業の集積促進に向けた取り組みに参画しています。新千歳空港等の運営、HVVA での活動、そして今回の千歳市との連携により、三菱地所は北海道から世界につながる産業エコシステムの形成に取り組めます。

■三菱地所が取り組む広域連携による産業エコシステム（千歳から丸の内、新川崎へ）

三菱地所は、地域ごとの強みを活かした拠点をつなぎ、技術・人材・資本が循環する広域的な「産業エコシステム」の形成を目指しています。

なかでも、半導体と量子は、AI 時代の次世代の計算基盤を担う両輪として、各国が国家戦略として研究開発投資を加速させている分野です。三菱地所は、量子分野においても、東京・丸の内に量子共創拠点「Tokyo Quantum Gateway (TQG)」を開設するとともに、新川崎において量子および AI・半導体等の関連分野の研究開発拠点の整備・運営に参画しています。

次世代半導体の製造・研究開発の現場である千歳、企業・投資家・需要が集積する丸の内、研究開発と社会実装を担う新川崎、そして東北大学をはじめとするアカデミアを結び付けることで、千歳で生まれる研究成果や先端半導体を活用したソリューションの社会実装と事業創出を後押しします。あわせて、新千歳空港を通じた世界との接続性と三菱地所グループのネットワークを活かし、国内外の企業・研究者と千歳との新たな接点を創出します。

（参考）関連する取り組み

【量子共創拠点「Tokyo Quantum Gateway（仮称、略称：TQG）」について】

量子技術分野における産学官連携、事業共創、人材交流を通じて、量子技術の社会実装を促進する共創拠点です。2027 年 1 月、東京・丸の内の新東京ビル 8 階「Deloitte Tohmatsu Innovation Park」内に開設予定です。ビジネスが集積する丸の内という物理的な「場」と、偶発的な出会いや継続的な交流を促す「仕組み」を提供し、日本の量子産業の発展に貢献します。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/news/mec261005_tokyoquantumgateway/261005.pdf

【新川崎・創造のもりイノベーション拠点整備事業について】

川崎市による公募型プロポーザルを経て、三菱地所株式会社、東急不動産株式会社、プライム ライフ テクノロジーズ株式会社が川崎市幸区の新川崎・創造のもりにおいて、量子技術を核に AI・半導体等の先端コンピューティング分野の「知」と「人材」を集積し、研究・実証・事業化を担う PoC（Proof of

Concept：概念実証）と社会実装の拠点「(仮称) QBIC」を整備・運営する事業です。「(仮称) QBIC」は、ラボ、コワーキング、交流・展示機能等を一体的に備え、研究者、企業、スタートアップ、大学等が分野を越えて集まり、新たな事業創出に取り組む施設として、2030 年の開業を予定しています。

量子プレーヤーが集積する新川崎の「研究開発・社会実装」機能と、(仮称) TQG が担う「出会い・学びのコミュニティ」機能を連動させ、丸の内エリアと新川崎を軸とした量子エコシステムの形成を目指します。

関連リリース：<https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000184/184463/hodo.pdf>

【東北大学との包括連携協定について】

半導体・フィジカル AI・量子をはじめとする先端技術分野において、産学連携の促進、人材育成、研究成果の社会実装に向けた取り組みを推進中。世界最高水準の研究基盤と人材を有する同大学との連携を通じ、研究者・企業・行政をつなぐネットワーク形成や新たな事業機会の創出に取り組んでいます。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/07/01_mec260701_tohoku%20univ

【北海道千歳市の系統用蓄電池設備整備について】

三菱 HC キャピタルエナジー株式会社、サムスン C&T インベストメント株式会社および大阪ガス株式会社と共同で、千歳市上長都において出力 25MW・容量 50MWh の系統用蓄電池設備を整備しています。電力需給に応じた充放電により電力系統の安定化を図り、2027 年 1 月の運転開始を目指します。再生可能エネルギーの普及拡大と脱炭素社会の実現に貢献します。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/news/mec250616_chitose/mec250616_chitose.pdf

以 上